

5月29日から全ての農作物に残留農薬基準が設定されました！！

薬剤散布の際は周囲への飛散に十分注意しましょう

< 目 次 >

|  |    |
|--|----|
| <b>． 今月の予報</b>                                       |    |
| <b>【注意すべき病害虫】</b>                                    |    |
| 水稲：いもち病(穂いもち), 斑点米カメムシ類                              | 1  |
| サツマイモ：ナカジロシタバ  | 2  |
| ナシ：ナシヒメシンクイ  | 3  |
| 果樹共通：果樹カメムシ類   | 3  |
| アブラナ科野菜共通：ハイマダラノメイガ                                  | 3  |
| 共通害虫：オオタバコガ  | 4  |
| <b>【その他の病害虫】</b>                                     | 4  |
| 水稲, ダイズ, ナシ, カキ, ブドウ, クリ, 秋冬ネギ, 夏秋ナス, 抑制トマト,<br>共通害虫 |    |
| <b>． 病害虫ミニ情報</b>                                     |    |
| サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策                              | 6  |
| オオタバコガの薬剤感受性と防除対策について                                | 7  |
| イチゴ炭そ病の発生と防除対策について                                   | 8  |
| 農薬登録速報(6月)の概要  | 9  |
| <b>． 今月の気象予報</b>                                     | 11 |
| <b>． テレホンサービス</b>                                    | 11 |
| 029(226)5321, 6131                                   |    |

本文に記載された農薬の登録内容は、平成 18 年 7 月 26 日現在のものです。  
農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を確認してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。  
茨城県病害虫防除所   Tel :029-227-2445  
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。  
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 平年並  | やや多い  | 県下全域 |

[予報の根拠]

7月下旬現在、葉いもちの発病度は平年より高い（表1）。

気象予報によると、向こう1か月は平年と同様に晴天の日が多いと予想されている。

[防除上注意すべき事項]

葉いもちの発生が多い水田では、穂いもちを対象に穂ばらみ期（出穂直前）と穂揃期に必ず防除する。

発生が少ない水田では、穂揃期に1回防除する。

出穂期に降雨が続くと予想される場合は、いもち病の感染に好適なため、葉いもちの多少に関わらず防除する。なお、雷雨等による一時的な降雨によっても発生が助長される場合があるので注意する。

穂いもちの防除で効果があるのは出穂後2週間位までである。

薬剤防除の際は、収穫前日数等の農薬使用基準及び周辺作物への飛散に十分注意する。

（7月21日発表の病害虫発生予察注意報第3号参照）

表1 葉いもちの発生状況（7月下旬調査）

|    | 葉いもち発病度 |     |      | 発生地点率（%） |    |    |
|----|---------|-----|------|----------|----|----|
|    | 本年      | 前年  | 平年   | 本年       | 前年 | 平年 |
| 県北 | 24.5    | 7.5 | 12.4 | 97       | 73 | 83 |
| 鹿行 | 6.8     | 4.0 | 4.2  | 67       | 33 | 34 |
| 県南 | 7.1     | 1.4 | 2.0  | 79       | 10 | 25 |
| 県西 | 9.4     | 0.1 | 0.4  | 64       | 9  | 9  |
| 全県 | 15.1    | 4.2 | 4.8  | 83       | 41 | 43 |

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 平年並  | 平年並   | 県下全域 |

[予報の根拠]

7月下旬現在、本田及び水田周辺のイネ科雑草地において、本県の優占種であるクモヘリカメムシの発生が確認されているが、平年並の発生である（表1）。

(水稲 斑点米カメムシ類 続き)

[ 防除上注意すべき事項 ]

周辺よりも出穂の早い水田では成虫の飛来が集中しやすい。また、出穂の遅い水田では周辺の水田等で増殖した新成虫が侵入することがあるので発生には十分注意する。

陸稲においても水稲と同様に発生に注意する。

斑点米カメムシ類の防除適期は、成虫を対象とした穂揃期と、幼虫を対象とした出穂 20 日後位までである。

穂揃期に多数の成虫を確認した場合は防除を実施する。その後は幼虫の発生を確認した場合に防除を行う。本年のクモヘリカメムシ幼虫の防除適期は、8月初めに出穂するコシヒカリで、県南では8月中旬頃、県北では8月20～25日頃である。

成虫および若齢幼虫が主体の場合は残効の長い薬剤を用いる。薬剤防除の際は、収穫前日数等の農薬使用基準及び周辺作物への飛散に十分注意する。

表1 水田周辺のイネ科雑草におけるクモヘリカメムシの発生程度別地点数(7月下旬調査)

| 調査年次       | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | 平年  |
|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 調査地点数      | 70  | 70  | 70  | 70  | 70  | 70  | 66  | 70  |
| 50頭以上 (甚)  | 1   | 2   | 2   | 1   | 2   | 0   | 1   | 1   |
| 31～50 (多)  | 2   | 2   | 0   | 0   | 2   | 2   | 0   | 1   |
| 11～30 (中)  | 1   | 2   | 0   | 0   | 2   | 1   | 2   | 1   |
| 1～10 (少)   | 5   | 9   | 8   | 5   | 14  | 3   | 8   | 7   |
| 0 (無)      | 61  | 55  | 60  | 64  | 50  | 64  | 55  | 59  |
| 発生地点率(%)   | 13  | 21  | 14  | 9   | 29  | 9   | 17  | 18  |
| 10回振り虫数(頭) | 2.5 | 4.0 | 5.9 | 1.4 | 3.8 | 1.4 | 2.5 | 3.3 |

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| 平年並  | やや多い | 県下全域 |

[ 予報の根拠 ]

7月下旬現在、被害葉率は平年よりやや高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

被害の大きい第3世代幼虫は、8月下旬頃から発生すると予想される。防除効果が高い幼虫発生初期(つる先や上位葉に指先ほどの穴が開いた食害痕が点々と認められる)の防除に努める。

薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までかかるよう丁寧に行う。また、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意する。

(p.6 病害虫ミニ情報参照)

## ナシ

### 1. ナシヒメシンクイ

#### [ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-----|------|
| 平年並  | 多い  | 県下全域 |

#### [ 予報の根拠 ]

7月下旬現在，フェロモントラップ(笠間市)への誘殺数は平年より多い。  
例年被害がほとんど認められない7月下旬調査において，被害果が確認された。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

薬剤散布は，幼虫が若齢である8月上旬に，収穫前日数に注意して行う。なお，周囲への飛散(ドリフト)に十分注意した散布方法で防除を行う。

早生品種よりも晩生品種の方が被害が大きくなるので注意する。

(8月1日発表の病害虫情報 No.4 参照)

## 果樹共通

### 1. 果樹カメムシ類

#### [ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-----|------|
| -    | 多い  | 県下全域 |

#### [ 予報の根拠 ]

7月下旬現在，ナシ園における被害果率は平年より高い。  
予察灯(かすみがうら市，笠間市)への果樹カメムシ類の誘殺数は，平年より多い。  
果樹カメムシ類の主要な餌のひとつであるスギ・ヒノキの球果が少ないため，果樹園への飛来が多くなると予想される。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

果樹園内にカメムシ類が飛来した場合は，収穫前日数に注意したうえで直ちに防除を行う。  
薬剤散布は，カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

## アブラナ科野菜共通

### 1. ハイマダラノメイガ

#### [ 予報内容 ]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| やや早い | やや多い | 県下全域 |

#### [ 予報の根拠 ]

7月下旬現在，笠間市の誘致植物(クレオメ)における発生時期は過去3年中最も早く，寄生株率は最も高い。  
気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生を助長する条件である。

( アブラナ科野菜共通 ハイマダラノメイガ 続き )

[防除上注意すべき事項]

本虫は、アブラナ科野菜の育苗期や本圃の初期に、幼虫が生長点付近を加害する。加害がひどいと芯止まりになるので、早期発見、早期防除に努める。苗床は、防虫ネット等で覆い、成虫の侵入を防ぐ。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| 平年並  | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

7月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は、水戸市で平年よりやや多く、坂東市で平年並である。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

圃場をよく観察し、幼虫の早期発見に努める。齢期が進むにしたがって薬剤の効果は低くなり、中齢幼虫になると果実や結球内に食入するため、食入前の若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

薬剤散布は、葉裏や株元にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤は連用しない。

(p.7 病害虫ミニ情報参照)

【その他の病害虫】

| 作物     | 病害虫名   | 発生予想     | 発生概況及び注意すべき事項  |
|--------|--------|----------|--|
| 水<br>稲 | 紋枯病    | 発生量：やや多い | 7月下旬現在、平年並の発生である。梅雨明け後に増加すると考えられる。                         |
|        | ニカメイガ  | 発生量：やや多い | 7月下旬現在、平年よりやや多い発生である。                                      |
|        | イネツトムシ | 発生量：平年並  | 防除適期は8月第1半旬なので、発生が多い場合はできるだけ早く防除を実施する。                     |
|        | セジロウンカ | 発生量：やや多い | 7月下旬現在、平年よりやや多い発生である。                                      |
| ダイズ    | 鱗翅目幼虫  | 発生量：平年並  | 7月下旬現在、平年よりやや少ない発生であるが、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生を助長する条件である。 |
|        | カメムシ類  | 発生量：やや多い | 7月下旬現在、平年並の発生である。  |

| 作物     | 病害虫名     | 発生予想     | 発生概況及び注意すべき事項  |
|--------|----------|----------|--|
| ナ<br>シ | 黒星病      | 発生量：やや多い | 7月下旬現在，発病果率は高い。発病した葉及び果実は見つけ次第除去し，土中深く埋める。             |
|        | ハマキムシ類   | 発生量：やや多い | 7月下旬現在，被害は認めず平年並であるが，予察灯(かすみがうら市)へのチャハマキの誘殺数は平年よりやや多い。 |
|        | ハダニ類     | 発生量：平年並  | 7月下旬現在，発生は認めない。今後，気温の上昇とともに，ハダニ類の発生に好適な条件になる。          |
| カキ     | カキノヘタムシガ | 発生量：平年並  | 7月下旬から8月上旬にかけて第2回成虫が発生するので，8月上中旬に次世代の若齢幼虫を防除する。        |
| ブドウ    | べと病      | 発生量：やや多い | 7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。                                  |
| クリ     | ネスジキノカワガ | 発生量：平年並  | 7月下旬現在，平年並の発生である。                                      |
| 秋冬ネギ   | ネギハモグリバエ | 発生量：やや多い | 7月下旬現在，夏ネギでの発生は平年よりやや多い。                               |
|        | ネギアザミウマ  | 発生量：平年並  | 7月下旬現在，夏ネギでの発生は平年並である。                                 |
| 夏秋ナス   | ハダニ類     | 発生量：やや多い | 7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。多発すると防除が困難になるため，発生初期の防除を徹底する。     |
|        | アザミウマ類   | 発生量：やや多い | 7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。                                  |
|        | マメハモグリバエ | 発生量：やや多い | 7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。                                  |
| 抑制トマト  | 灰色かび病    | 発生量：やや多い | 7月下旬現在，平年より多い発生である。例年8月は発生が少ないが，曇雨天が続くと発生が助長されるので注意する。 |
|        | コナジラミ類   | 発生量：平年並  | 7月下旬現在，調査地点の50%で成虫の発生を確認した。                            |
| 害共虫通   | ハスモンヨトウ  | 発生量：平年並  | 7月下旬現在，平年並の発生である。フェロモントラップへの誘殺数も，平年並に推移している。           |

## サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策

ナカジロシタバは、幼虫がサツマイモの葉を食害します。多発すると、短期間で葉脈・葉柄だけを残して葉を食べ尽くすこともあり、サツマイモの収量・品質低下につながりますので、初期の発生に注意して早めに防除を行うことが重要です。

### 1．ナカジロシタバの発生生態

ナカジロシタバは、年3回発生し、発生量は8月以降に発生する第3世代幼虫が最も多くなります。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。孵化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して葉脈・葉柄だけを残して暴食するようになります。成熟した幼虫は土中に潜って土マユを作り、その中で蛹になります。

### 2．発生状況

本県におけるナカジロシタバの被害は、例年8月下旬から9月にかけて拡大し(図1)、特に夏期の気温が高い年は、発生が多くなる傾向にあります。気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生を助長する条件です。今後の幼虫の発生には十分に注意してください。

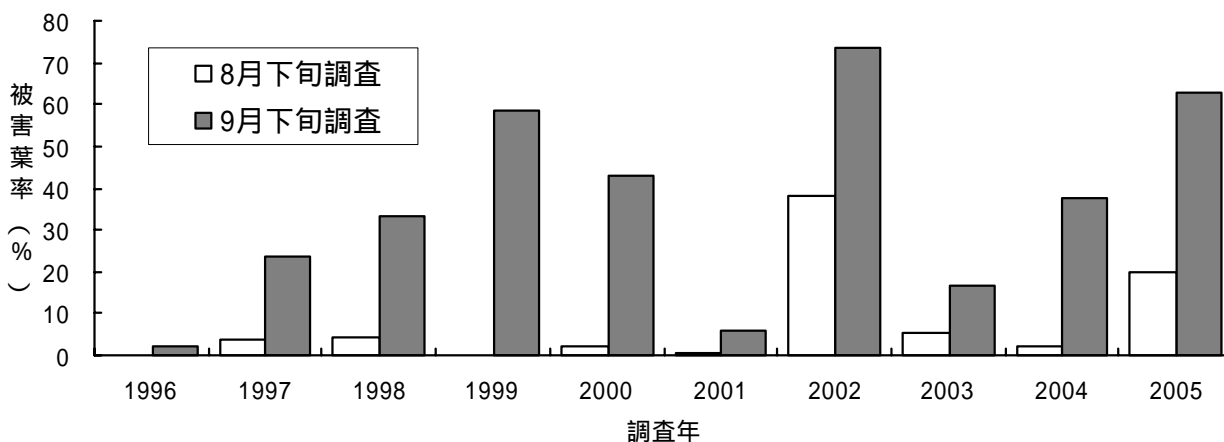


図1 過去10年間のナカジロシタバ被害葉率

### 3．防除対策

8月下旬～9月上旬に圃場での発生の様子をよく観察し、若～中齢幼虫が発生の中心で、つる先や上位葉に指先ほどの穴が開いた食害痕が点々と認められる時期、すなわち幼虫発生初期に薬剤散布を行います。その際、幼虫が生息する葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布してください。また、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意して行ってください。

薬剤に対する抵抗性は現在のところ認められていないので、表1に示す薬剤を適期に散布することで、十分な効果が得られます。

表1 サツマイモのナカジロシタバに登録のある主な農薬(平成18年7月26日現在)

| 薬剤名        | 希釈倍数         | 収穫前日数 - 剤の使用回数 | 有効成分名 - 有効成分の総使用回数 |
|------------|--------------|----------------|--------------------|
| オリオン水和剤40  | 1,000倍       | 前日 - 5回        | アラニカルブ - 5回        |
| ディブテレックス乳剤 | 700～1,000倍   | 14日 - 4回       | DEP - 4回           |
| トルネードフロアブル | 2,000倍       | 7日 - 2回        | インドキサカルブMP - 2回    |
| トレボン乳剤     | 1,000倍       | 7日 - 3回        | エトフェンブロックス - 3回    |
| ノーモルト乳剤    | 1,000倍       | 7日 - 2回        | テフルベンズロン - 2回      |
| マッチ乳剤      | 2,000～3,000倍 | 14日 - 2回       | ルフェヌロン - 2回        |
| ラービフロアブル   | 750～1,000倍   | 3日 - 3回        | チオジカルブ - 3回        |

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用してください。

## オオタバコガの薬剤感受性と防除対策について

オオタバコガは、レタスなどの葉菜類、トマト、ナスなどの果菜類、キク、トルコギキョウ、バラなどの花き類など多くの作物を加害します。また、多くの薬剤に対して抵抗性を獲得しているため防除が難しい害虫です。そこで、主要な薬剤の殺虫効果を確認するため、昨年8～9月に県内の現地圃場からオオタバコガの幼虫を採取し、薬液に浸したキャベツ葉を摂食させる方法により、薬剤に対する感受性を検定しました。その結果と防除上の留意点についてお知らせします。

### 【結果の概要】

- (1) アファーム乳剤及びスピノエース顆粒水和剤の2薬剤は、全ての地点において補正死虫率が100%となり、高い殺虫効果が認められました。
- (2) カスケード乳剤及びトルネードフロアブルは補正死虫率が100～93%、プレオフロアブルは100～86%、エスマルク DF は97～87%となり、高い殺虫効果が認められました。
- (3) オルトラン水和剤は補正死虫率が100～67%、ラービソフロアブルは93～40%、コテツフロアブルは93～55%と地点によるばらつきが大きく、安定した殺虫効果は認められませんでした。
- (4) マトリックフロアブルは補正死虫率が83～26%と殺虫効果は概ね低くなりました。

以上の結果から、オオタバコガに対しては、アファーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤、カスケード乳剤、トルネードフロアブル、プレオフロアブル及びエスマルク DF を組み入れた防除体系が有効であると考えられます。

第1表 各種薬剤に対するオオタバコガ3齢幼虫の薬剤感受性

| 系統名     | 薬剤名         | 希釈<br>倍数 | 採集地点<br>(採集作物) | 補正死虫率(%) <sup>1)2)</sup> |              |              |             |
|---------|-------------|----------|----------------|--------------------------|--------------|--------------|-------------|
|         |             |          |                | 水戸市<br>(カブト)             | 行方市<br>(トマト) | つくば市<br>(ナス) | 坂東市<br>(レタ) |
| 有機リン剤   | オルトラン水和剤    | 1,000    |                | 100                      | 70           | 67           | 90          |
| カーバメート剤 | ラービソフロアブル   | 1,000    |                | 93                       | 83           | 40           | 93          |
| IGR 剤   | カスケード乳剤     | 4,000    |                | 100                      | 93           | 96           | 100         |
|         | マトリックフロアブル  | 1,000    |                | 56                       | 57           | 26           | 83          |
| BT 剤    | エスマルク DF    | 1,000    |                | 93                       | 87           | 93           | 97          |
|         | アファーム乳剤     | 1,000    |                | 100                      | 100          | 100          | 100         |
|         | コテツフロアブル    | 2,000    |                | 55                       | 70           | 93           | 83          |
| その他     | スピノエース顆粒水和剤 | 2,500    |                | 100                      | 100          | 100          | 100         |
|         | トルネードフロアブル  | 2,000    |                | 100                      | 100          | 93           | 100         |
|         | プレオフロアブル    | 1,000    |                | 86                       | 100          | 97           | 100         |

1)補正死虫率(%) = {(対照区生存虫率 - 処理区生存虫率) / (対照区生存虫率)} × 100

2)処理3日後の補正死虫率を示した。ただし、IGR 剤及びBT 剤については処理7日後の補正死虫率を示した。

注)本表の薬剤名と採集作物の組み合わせは、あくまでも薬剤感受性検定のためのものであり、各薬剤の農薬登録内容(適用作物)とは一致していません。農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の適用作物、使用方法等を確認のうえ使用してください。



### 【防除上の留意点】

- (1) 圃場をよく観察し、幼虫の早期発見に努めます。新しい食害痕や虫糞の周辺に幼虫がいる可能性が高いので幼虫を見つけ次第捕殺します。
- (2) 果菜類や花き類では、被害果や摘芯・摘花した腋芽、花蕾などに卵や若齢幼虫がついているため、これらは株元に放置せず、圃場外へ持ち出し土中深く埋めるなどして処分することが大切です。また、施設栽培では、開口部や出入り口を防虫ネットで被覆すると、成虫の侵入を防ぎ、高い防除効果があります。
- (3) 幼虫の齢期が進むほど薬剤に対する感受性が低下します。また、中齢幼虫以降になると蕾、果実や結球内に食入するため薬剤がかかりにくくなります。食入前の若齢幼虫のうちに防除を徹底することが重要です。
- (4) 秋冬レタス、キャベツなどの露地野菜の定植期(8月下旬~9月中旬頃)は、オオタバコガの産卵時期と重なります。また、結球前の葉に産卵された場合、結球後に被害が大きくなります。そのため、定植後~結球前の防除が特に重要であり、薬剤は発生状況に応じて葉裏や株元にもかかるよう丁寧に散布してください。
- (5) オオタバコガは、多くの薬剤に対して抵抗性が発達しています。新たな抵抗性を発達させないため、薬剤を散布する場合は、系統の異なる薬剤をローテーション散布してください。
- (6) コナガコン-プラスは、オオタバコガに対する交信攪乱効果があり、成虫の発生前から栽培地域全体に設置(100~120本/10a)すると効果的です。ただし、本剤には直接的な殺虫効果はなく、密度が高くなると効果が不十分になるため、薬剤散布を併用することも大切です。

## イチゴ炭そ病の発生と防除対策について

### イチゴ炭そ病について

本病は葉や葉柄、ランナーに病斑が生じ、クラウン部を侵して株全体を枯らす病害です。15 前後では症状が現れず、20 以上が発病に適し、葉等に病斑を形成します。高温になるほど株全体が枯れる急性の萎れ症状が発生しやすくなります。

本病は本ばに定植してから発生すると、大きな被害となります。定植直後から発病する株は、仮植床ですでに病原菌が感染していると考えられます。また、本ばにこのような株を持ち込むと、健全株へ次々に感染を拡大する恐れがあります。このため本病の防除対策は、育苗期から行うことが重要です。

### 防除対策

#### 1)健全苗の育成

親株は必ず無病地から選抜した株を使用して下さい。

#### 2)親株床および仮植床、本ばの管理

- (1)本病の伝染は、降雨や灌水時の水滴の跳ね上がりによって、病斑上の胞子が飛散して起こります。このため、雨よけ栽培は水滴の跳ね上がりがないため、本病の抑制に効果があります。また灌水は頭上灌水を避け、弱い流し水や、点滴型の灌水チューブ等を利用して下さい。
- (2)株間を広くとり多湿にならないよう注意し、大雨で冠水しやすい場所は避けるなど、排水の良い場所を選び、畝や溝を設けて排水対策を行って下さい。
- (3)仮植床や本ばは無病な圃場を選定して下さい。やむを得ず連作を行う場合には、土壌消毒を行って下さい。
- (4)雨よけ栽培であっても、強風雨時には雨が入り込み、伝染が起きることも考えられるので、できるだけ降雨前に薬剤散布を行う等、初期防除を徹底して下さい。
- (5)発病株は見つけ次第除去し、土中深く埋めてください。

## 農薬登録速報（6月）の概要

平成18年6月期間中（6/1～6/30）に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。  
なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

### 殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤・忌避剤等

新規> S T M R . ジョーカー E W , S T ビームトレボン粉剤 D L ,  
エコメイト , オサダンフロアブル , ノンプラスダントツ H 粉剤 D L ,  
プリンスフロアブル , ホクコーイモチエースリンパー粒剤 5 5 ,  
ホクコーカスラプスタークルフロアブル ,  
ホクコーラブサイドスタークルフロアブル , 協友ビルク水和剤  
変更> A C C ノーモルト乳剤 , F M C アドバンテージ S 粒剤 ,  
S D S ドーシャスフロアブル , T D 粒剤 , アクタラ顆粒水溶剤 ,  
アプロードエースフロアブル , アミスター 2 0 フロアブル , エコショット ,  
オンコル粒剤 5 , カヤククロールピクリン , カルホス微粒剤 F , カルホス粉剤 ,  
カルモック , キヒゲンディーフロアブル , キルパー ,  
クミアイストロビードライフフロアブル , クミアイトレボン乳剤 ,  
クミアイノーモルト乳剤 , クミアイベルコート水和剤 , クロピク 8 0 ,  
クロルピクリン錠剤 , コロマイト水和剤 , コロマイト乳剤 ,  
サンケイトレボン乳剤 , サンケイベルコート水和剤 , サンマイトフロアブル ,  
シンジェンタ・トレボン乳剤 , スターナ水和剤 , ストロビードライフフロアブル ,  
スプラサイド乳剤 4 0 , ダイアジノン粒剤 1 0 , ダントツ箱粒剤 ,  
チルト乳剤 2 5 , ドーシャスフロアブル , ドジョウピクリン ,  
トレボン乳剤 , ドロクロール , ニッソラン V ジェット , ネキリトン K ,  
バイレトン水和剤 5 , パロックフロアブル , プリファード水和剤 ,  
ベニカ水溶剤 , ベルクート水和剤 , ホクコーノーモルト乳剤 ,  
マイトコーネフロアブル , マツグリーン液剤 2 , モスピラン水溶剤 ,  
ヤシマスターナ水和剤 , ヤシマノーモルト乳剤 , ヤシマベルコート水和剤 ,  
ヤシマモレスタン水和剤 , リドミル水和剤 , 協友ダントツ箱粒剤 ,  
兼商モレスタン水和剤 , 三井東圧クロールピクリン , 三共サイアノックス水和剤 ,  
三共トレボン乳剤 , 三共フロンサイド粉剤 , 三共ベルコート水和剤 ,  
住友サイアノックス水和剤 , 新富士ニッソラン V ジェット ,  
石原アドバンテージ S 粒剤 , 石原フロンサイド粉剤 , 南海クロールピクリン ,  
日産ストロビードライフフロアブル , 日産トレボン乳剤 ,  
日曹ストロビードライフフロアブル , 日農ノーモルト乳剤 , 日農モスピラン水溶剤

### 除草剤等

新規> S T バレージ粒剤 , S T ロンゲットフロアブル ,  
カルテット 1 キロ粒剤 5 1 , ゴウワン 1 キロ粒剤 5 1 , ゴウワン 1 キロ粒剤 7 5 ,  
ゴウワン L フロアブル , ゴウワンフロアブル , 用心棒フロアブル  
変更> [ D I C ] たんぼにボンジャンボ , J A サラブレッド R X フロアブル ,  
S D S シロノック L ジャンボ , S D S シロノック L フロアブル ,  
S D S ダブルスター S B 顆粒 , S D S テラガード L ジャンボ ,  
S D S テラガードジャンボ , S D S テラガードフロアブル ,  
S D S テロス 2 5 0 グラム , キレダー , クサストップ 1 キロ粒剤 7 5 ,  
クサトリー D X 1 キロ粒剤 7 5 , クサトリー D X ジャンボ H ,  
クサトリー D X ジャンボ L , クサトリー D X フロアブル H ,  
クサトリー D X フロアブル L , クサノン V 粒剤 ,  
クミアイテラガード 1 キロ粒剤 5 1 , クミアイテラガード 1 キロ粒剤 7 5 ,

サラブレッドRXフロアブル，サンサール1キロ粒剤，  
サンサール顆粒，シロノックLジャンボ，シロノックLフロアブル，  
ダイナマンD1キロ粒剤51，ダイナマンDフロアブル，  
タッチダウンiQ，ダブルスター1キロ粒剤，ダブルスターSB1キロ粒剤，  
ダブルスターSB顆粒，たんぼにボンジャンボ，テラガード1キロ粒剤51，  
テラガード1キロ粒剤75，テラガードLジャンボ，テラガードジャンボ，  
テラガードフロアブル，テロス250グラム，トクヤマたんぼにボンジャンボ，  
バイエルダブルスターSB顆粒，バイエルダブルスター1キロ粒剤，  
バイエルダブルスターSB1キロ粒剤，フォーカスショットジャンボ，  
ホクコーフォーカスショットジャンボ，マサカリLジャンボ，  
モンサントラッソー乳剤，ラクダープロ1キロ粒剤51，  
ラクダープロLフロアブル，ワンサイドP乳剤，  
科研フォーカスショットジャンボ，三共クサトリーDX1キロ粒剤75，  
三共クサトリーDXジャンボH，三共クサトリーDXジャンボL，  
三共クサトリーDXフロアブルH，三共クサトリーDXフロアブルL，  
三共シロノックLジャンボ，三共シロノックLフロアブル，  
三共ラクダープロ1キロ粒剤51，三共ラクダープロLフロアブル，  
大塚たんぼにボンジャンボ，日産ラッソー乳剤，  
日農クサストップ1キロ粒剤75，日農ダイナマンD1キロ粒剤51，  
日農ダイナマンDフロアブル，日農マサカリLジャンボ，  
日農ラッソー乳剤

#### 植調剤等

変更> デシカン乳剤

#### 失効農薬

〔DIC〕バイザー水和剤，アグロス散粉デリス，アゴールド乳剤，  
オフナックフロアブル，オフナック水和剤，ククメリス，クサころりん，  
スパイデックス，ダイポスチオン乳剤，トモノEPN乳剤，  
トモノオフナック水和剤，トモノロブドー水和剤，トリアジンジェット，  
バラギクパニック，ホクコーイモチエースリンバー粒剤，  
まるしょうD-D，ヤシマオフナックフロアブル，リプロ液剤，  
兼商テルスターくん煙剤，三共ヒノラブトレボン粉剤35DL，  
三光ダコニールくん煙剤，日産ジメトエート粒剤，日産テルスターくん煙剤，  
日曹トリアジンジェット，日農ジプロム乳剤

農薬の登録失効は，同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので，ご注意願います。

## ．今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

( 予報期間 7 月 29 日から 8 月 28 日 )

気象庁 ( 7 月 28 日 発表 )

< 向こう 1 か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率 ( % ) >

[ 確率 ]

| 要素   | 予報対象地域 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|--------|---------|-----|--------|
| 気温   | 関東甲信全域 | 20      | 40  | 40     |
| 降水量  | 関東甲信全域 | 30      | 40  | 30     |
| 日照時間 | 関東甲信全域 | 30      | 40  | 30     |

[ 概要 ]

天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は平年並か高いでしょう。降水量は平年並でしょう。日照時間は平年並でしょう。

< 1 週目の予報 > 7 月 29 日 ( 土曜日 ) から 8 月 4 日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 平年並か低い

< 2 週目の予報 > 8 月 5 日 ( 土曜日 ) から 8 月 11 日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 平年並か高い

< 3 週目から 4 週目の予報 > 8 月 12 日 ( 土曜日 ) から 8 月 25 日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 平年並か高い

## ．テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために，病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029 ( 226 ) 5321 , 6131

- 8 月上旬 水稲病害虫の防除対策について
- 8 月中旬 サツマイモ害虫の防除対策について
- 8 月下旬 ダイズ病害虫の防除対策について ( 1 )
- 9 月上旬 ダイズ病害虫の防除対策について ( 2 )



# 平成19年度茨城県立農業大学校学生募集

## 募集人員等

|             | 科名     | 募集人員 | 受験資格                           | 修業年限 | 専攻コース    |
|-------------|--------|------|--------------------------------|------|----------|
| 学<br>科      | 農学科    | 20名  | 高校等を卒業した者及び平成19年3月に卒業又は修了見込みの者 | 2年   | 水田, 畑作   |
|             | 畜産学科   | 10   |                                | 2年   | 酪農, 養豚   |
|             | 経営情報学科 | 10   |                                | 2年   |          |
|             | 果樹園芸学科 | 10   |                                | 2年   |          |
|             | 野菜園芸学科 | 20   |                                | 2年   |          |
|             | 花き園芸学科 | 10   |                                | 2年   |          |
| 研<br>究<br>科 |        | 10   | 農業系短大卒以上                       | 2年   | 作物・園芸・畜産 |

## 願書受付・入学試験

| 試験区分         | 願書受付期間                             | 試験日            | 選抜方法                   |
|--------------|------------------------------------|----------------|------------------------|
| 推薦入試<br>(学科) | 平成18年10月2日(月)～10月17日(火)            | 平成18年10月27日(金) | 小論文<br>口述試験<br>(個別面接)  |
| 一般入試<br>(学科) | 前期<br>平成18年12月18日(月)～平成19年1月17日(水) | 平成19年1月31日(水)  | 筆記試験<br>口述試験<br>(個別面接) |
|              | 後期<br>平成19年2月7日(水)～平成19年2月26日(月)   | 平成19年3月6日(火)   |                        |
| 研究科<br>一般入試  | 平成18年10月2日(月)～10月17日(火)            | 平成18年10月27日(金) | 筆記試験<br>口述試験<br>(個別面接) |

問い合わせ先 〒311-3116 東茨城郡茨城町長岡 4070-186

茨城県立農業大学校 入試事務局 TEL029-292-0010